

2026年3月期 第1四半期 決算説明会

---

# 東海旅客鉄道株式会社

2025年7月29日

# 目 次

|     |                     |     |
|-----|---------------------|-----|
| I   | 2026年3月期第1四半期 決算実績等 | … 3 |
| II  | 各種施策の状況             | …10 |
| III | 中央新幹線計画の状況          | …14 |

○総合企画本部長の木村です。本日はスライド表示のとおりの内容で、ご説明します。

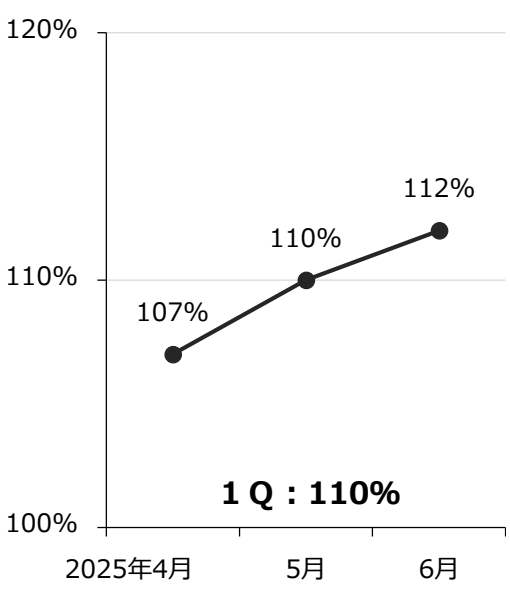
---

## I 2026年3月期第1四半期 決算実績等

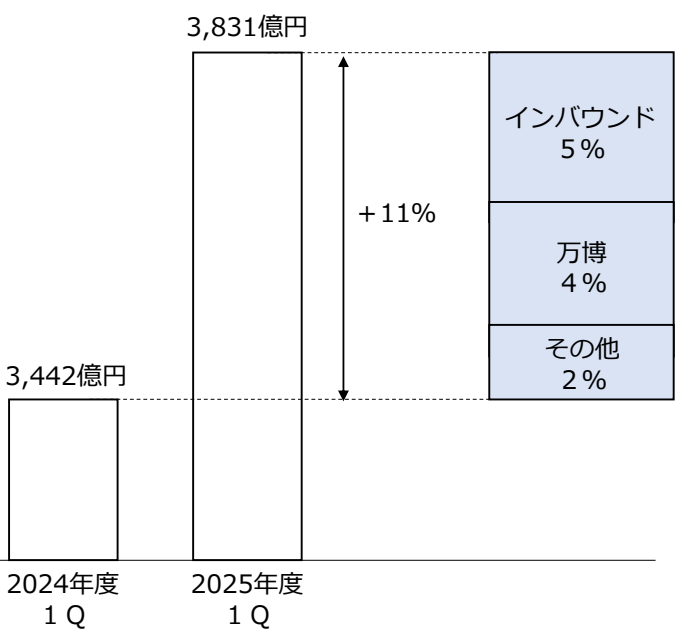
○初めに、2026年3月期第1四半期決算実績等についてご説明します。

# 東海道新幹線のご利用状況と運輸収入

## ■ 東海道新幹線のご利用状況 (東京口断面輸送量、2024年度比)



## ■ 運輸収入 (幹・在) の比較



- 第1四半期はご利用が好調に推移し、2024年度比で110%（2018年度比105%）
- 運輸収入は2024年度比で111%（+11%の内訳はインバウンド5%、万博4%、その他2%（ビジネス需要の増等）と推計）

- まず、足元の状況に関して、当社の主力である東海道新幹線のご利用状況と、運輸収入についてご説明します。
- 東海道新幹線の東京口断面輸送量は、2024年度比で4月が107%、5月が110%、6月が112%、第1四半期の3か月間で110%となりました。
- 新幹線・在来線を合わせた運輸収入については、2024年度比で111%となりました。これは、インバウンドのご利用増や大阪・関西万博の開催に伴うご利用増、ビジネス需要の増等により、東海道新幹線のご利用が好調に推移していることが大きな要因であると考えています。11%の増加の内訳は、インバウンドのご利用増が5%、万博の開催に伴うご利用増が4%、その他が2%と推計しています。

- 大阪・関西万博の開催に伴い、東海道新幹線では需要にあわせた弾力的な列車設定を実施
- 首都圏⇄新大阪および名古屋⇄新大阪のご利用が全体のトレンドよりも高い水準で推移し、運輸収入に対して約140億円の増収効果があったと推計

【実績】 第1四半期における効果

※ インバウンドを含む

| 4/13～6/30 (79日間) | 首都圏⇄新大阪 | 名古屋⇄新大阪 | 1Qにおける効果 |
|------------------|---------|---------|----------|
| 増収額              | +120億円  | +20億円   | +140億円   |

【参考】 業績予想時の想定

| 4/13～10/13 (184日間) | 首都圏⇄新大阪 | 名古屋⇄新大阪 | 想定額    |
|--------------------|---------|---------|--------|
| 増収額                | +155億円  | +45億円   | +200億円 |

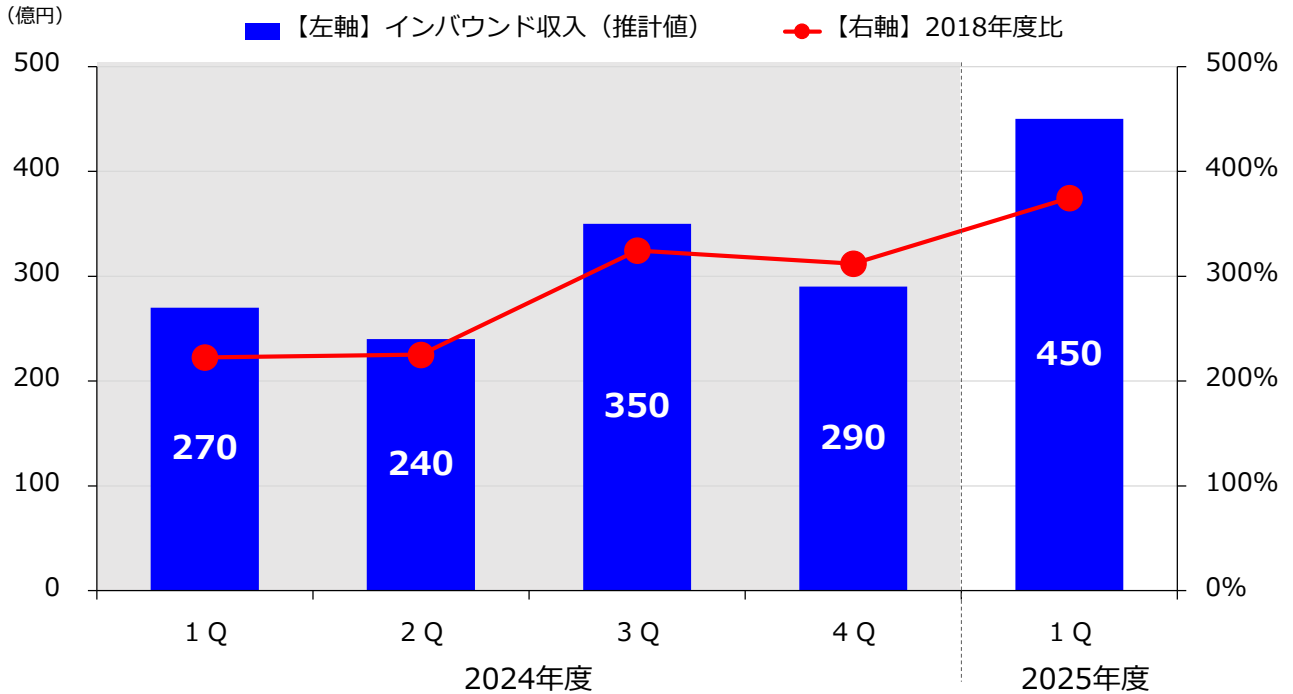
- 次に、大阪・関西万博の開催に伴う増収効果についてご説明します。
- 当社は、大阪・関西万博の開催に伴い、東海道新幹線について、「のぞみ12本ダイヤ」を活用しながら、需要にあわせた弾力的な列車設定を実施しています。
- 万博の開幕以降、首都圏と新大阪間のご利用、名古屋と新大阪間のご利用が全体のトレンドよりも高い水準で推移しており、その上振れ分が万博による押し上げ効果であると考え、第1四半期では、約140億円の増収効果があったと推計しています。

# インバウンドの状況

6

○ 1 Q インバウンド収入（推計値）は約450億円

※インバウンド収入（推計値）は10億円未満切捨



○次に、インバウンドの状況についてご説明します。

○第1四半期のインバウンド収入（推計値）は、約450億円となり、前年度と比較して約170%です。増加の主な要因は2つあると考えています。

○1つ目は、訪日外国人数の増加です。

○2つ目に、訪日外国人向け「スマートEX」のプロモーションを継続するとともに、旅行会社との連携を強化して訪日外国人向けのQRコードによるチケットレス乗車サービスの販路を拡大した効果もあったと考えています。なお、これらの取組みにより、駅の窓口や券売機等で日本語のきっぷを購入されるのではなく、訪日外国人向け商品を利用されるようになったお客様が一定数いらっしゃり、より正確にインバウンド収入を推計できるようになったことも影響したと考えています。

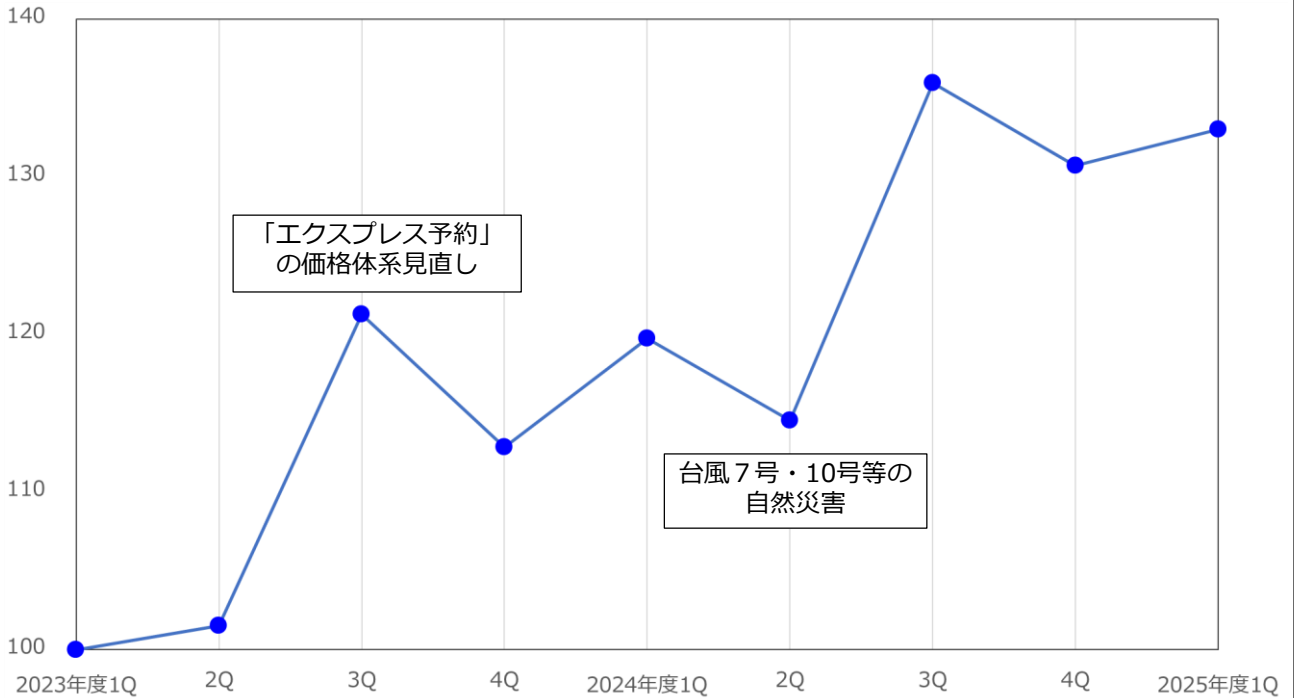
○増加傾向にある訪日外国人の需要をしっかりと取り込み、増収につなげることができるよう、より効果的な宣伝を展開するとともに、旅行会社との連携強化により、販路の拡大を進めるなど、営業施策の強化に取り組んでいきます。

# 東海道新幹線のビジネス需要の状況

7

○ 「エクスプレス予約」の主要な法人会員の利用実績は増加傾向

■ EX法人会員（主要200社）利用額の推移（平日1日平均、2023年度1Qを100とする）



○次に、東海道新幹線のビジネス需要の状況についてご説明します。

○昨年もお示ししましたが、当社では、ビジネスの動向を把握する方法として、「エクスプレス予約」の主要な法人会員の平日1日あたりの利用実績データを分析しており、グラフは2023年度の第1四半期のご利用を基準とした際の利用額の推移です。

○季節ごとに上下している部分がありますが、全体の傾向として、「エクスプレス予約」の主要な法人会員の利用実績は概ね右肩上がりです。

比較第 1 四半期損益計算書【連結】

(単位 億円、%)

|                      | 2024年度 | 2025年度 | 増減  | 前期比   | 主な増減要因        |
|----------------------|--------|--------|-----|-------|---------------|
| 営業収益                 | 4,352  | 4,782  | 429 | 109.9 |               |
| 運輸業                  | 3,575  | 3,962  | 387 | 110.8 | 運輸収入の増        |
| 流通業                  | 388    | 411    | 23  | 106.0 | 駅店舗の売上の増      |
| 不動産業                 | 124    | 129    | 5   | 104.3 | 駅商業施設の賃料収入の増  |
| その他                  | 265    | 279    | 13  | 105.3 | 鉄道車両等製造業の売上の増 |
| 営業費                  | 2,509  | 2,570  | 60  | 102.4 |               |
| 営業利益                 | 1,843  | 2,212  | 368 | 120.0 |               |
| 営業外損益                | △ 130  | △ 136  | △ 6 | 104.9 |               |
| 営業外収益                | 72     | 70     | △ 1 | 97.3  |               |
| 営業外費用                | 203    | 207    | 4   | 102.2 |               |
| 経常利益                 | 1,712  | 2,075  | 362 | 121.2 |               |
| 特別損益                 | △ 1    | △ 2    | △ 0 | 144.3 |               |
| 税金等調整前四半期純利益         | 1,711  | 2,073  | 361 | 121.1 |               |
| 法人税等                 | 504    | 610    | 106 | 121.1 |               |
| 四半期純利益               | 1,207  | 1,462  | 255 | 121.2 |               |
| 非支配株主に帰属する<br>四半期純利益 | 9      | 10     | 1   | 113.0 |               |
| 親会社株主に帰属する<br>四半期純利益 | 1,197  | 1,452  | 254 | 121.2 |               |

(注) 営業収益の内訳は、セグメント別の外部顧客への売上高

- 連結決算の概要についてご説明します。
- 連結の営業収益については、当社の運輸収入が増加したほか、グループ会社の収益も増加し、前期から429億円増の4,782億円となりました。
- 営業収益の内訳として、セグメント別の外部顧客への売上高を記載しています。
- 主な増減要因は記載のとおりで、いずれのセグメントも増収となり、営業利益は2,212億円、経常利益は2,075億円、親会社株主に帰属する四半期純利益は1,452億円と、増収・増益の決算となりました。なお、営業収益、各利益、いずれも過去最大です。

比較第 1 四半期損益計算書【単体】

(単位 億円、%)

|           | 2024年度 | 2025年度 | 増減  | 前期比   | 主な増減要因              |
|-----------|--------|--------|-----|-------|---------------------|
| 営業収益      | 3,626  | 4,015  | 389 | 110.7 |                     |
| うち運輸収入    | 3,442  | 3,831  | 389 | 111.3 | 新幹線+377、在来線+12      |
| 営業費       | 1,871  | 1,902  | 30  | 101.6 |                     |
| 人件費       | 453    | 470    | 16  | 103.6 | ベースアップによる増、退職給付費用の減 |
| 物件費       | 853    | 864    | 10  | 101.3 |                     |
| 動力費       | 134    | 143    | 9   | 107.0 | 電力単価の増              |
| 修繕費       | 262    | 254    | △ 7 | 97.2  |                     |
| 業務費       | 456    | 465    | 8   | 101.9 |                     |
| 租税公課      | 111    | 113    | 2   | 101.8 |                     |
| 減価償却費     | 453    | 455    | 1   | 100.3 |                     |
| 営業利益      | 1,754  | 2,113  | 359 | 120.5 |                     |
| 営業外損益     | △ 135  | △ 144  | △ 8 | 106.6 |                     |
| 営業外収益     | 70     | 68     | △ 1 | 97.4  |                     |
| 営業外費用     | 205    | 213    | 7   | 103.5 |                     |
| 経常利益      | 1,618  | 1,968  | 350 | 121.6 |                     |
| 特別損益      | 2      | 2      | 0   | 103.4 |                     |
| 税引前四半期純利益 | 1,621  | 1,971  | 350 | 121.6 |                     |
| 法人税等      | 476    | 580    | 103 | 121.7 |                     |
| 四半期純利益    | 1,144  | 1,390  | 246 | 121.6 |                     |

- 単体決算の概要についてご説明します。
- まず営業収益ですが、運輸収入が増加し、前期から389億円増の4,015億円でした。
- 営業費は、人件費、物件費等が増加した影響で、前期から30億円増の1,902億円となりました。
- その他の増減については記載のとおりです。
- 営業利益は2,113億円、経常利益は1,968億円、四半期純利益は1,390億円と増収・増益の決算となりました。なお、営業収益、各利益、いずれも過去最大です。

---

## Ⅱ 各種施策の状況

○次に、各種施策の状況についてご説明します。

## 収益拡大

### ■需要創出

- ・昨年度の増収（百数十億円と推計）を上回る効果を目指し、取組みを展開



猫屋のひとりごと×JR東海  
猫猫、壬氏の京都たび



TAKARAZUKA STAR EXPRESS  
(1編成貸し切り新幹線ツアー)

### ■価格戦略

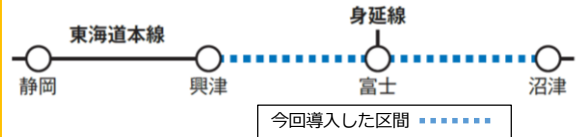
- ・上級クラス座席の導入、グリーン車のサービス向上に向けた取組みを推進
- ・新幹線自由席特急料金の届出化やインフレによるコスト増を柔軟に運賃・料金に転嫁できる制度の導入に向けて、引き続き国に要望



## 業務改革

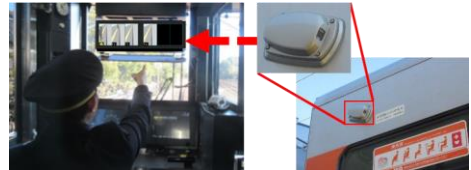
### ■お客様サポートサービス

- ・2025年6月に東海道本線（沼津駅～興津駅）でサービス開始



### ■315系4両編成でのワンマン運転

- ・2026年春頃から関西本線（名古屋駅～亀山駅）、武豊線で実施予定



車側カメラを用いたワンマン運転

- 新たな業務改革件名や既存件名の効果拡大に取り組む

- 第1四半期においても、「収益拡大」と「業務改革」の取組みを着実に進めました。
- 「収益拡大」に向けた需要創出の取組みについては、昨年度の増収（百数十億円と推計）を上回る効果を目指し、取組みを展開しています。
- 価格戦略については、2026年秋から、東海道新幹線のN700S車両の一部に、高いプライベート感とセキュリティ環境を備えた個室タイプの座席を、2027年度からは高いプライベート感と上質性を兼ね備えた半個室タイプの座席を順次導入します。さらに、グリーン車についても、サービス向上を実施し、サービスに見合った料金の設定を行うべく、取組みを推進しています。
- また、新幹線自由席特急料金の届出化やインフレによるコスト増を柔軟に運賃・料金に転嫁できる制度の導入に向けて、引き続き国に要望していきます。
- 「業務改革」の取組みでは、10～15年かけて定常的なコストを800億円削減することを目標としています。
- 2025年6月に東海道本線（沼津駅～興津駅）で「お客様サポートサービス」の提供を開始しました。
- 315系4両編成でのワンマン運転についても、2026年春頃から関西本線（名古屋駅～亀山駅）、武豊線で実施すべく、着実に準備を進めています。
- 目標の実現に向けた具体的なメニューは既に整理できていますが、新たな業務改革件名や既存件名の効果拡大に取り組んでいきます。

- 新幹線・在来線ともにインバウンドを含めて多くのお客様にご乗車いただくなど、ご利用が堅調に推移していることから、さらなる輸送サービスの充実のため、車両を追加投入する

- 新幹線車両「N700S」⇒2編成を追加投入

- ・ご利用ニーズにあわせたさらなる弾力的な列車設定が可能に
- ・自然災害等の輸送障害時に早期の遅延回復に資する



## ■新幹線車両「N700S」投入編成数

| 年度    | 2026年度まで | 2027年度 | 2028年度 | 計  |
|-------|----------|--------|--------|----|
| 当初計画  | 63       | 7      | 6      | 76 |
| 新たな計画 | 63       | 8      | 7      | 78 |

- 在来線特急車両「HC85系」⇒6両を追加投入

- ・ご利用ニーズにあわせたさらなる弾力的な増結や増発が可能に



## ■在来線特急車両「HC85系」投入車両数

| 年度    | 2023年度まで | 2027年度 | 計  |
|-------|----------|--------|----|
| 当初計画  | 68       | -      | 68 |
| 新たな計画 |          | 6      | 74 |

- 昨今、新幹線・在来線ともに、インバウンドを含めて多くのお客様にご乗車いただくなど、ご利用が堅調に推移していることから、さらなる輸送サービスの充実のため、車両を追加投入することを決定しました。
- まず、新幹線車両「N700S」についてです。昨年6月には、2026年度から2028年度にかけてN700Sを追加投入し、合計で76編成となる計画を発表しておりましたが、今回、2027年度と2028年度に、それぞれさらに1編成ずつを追加することとしました。これにより、お客様のご利用ニーズにあわせた、さらなる弾力的な列車設定が可能となり、利便性が向上するほか、自然災害等の輸送障害からの回復時には、より機動的に列車を充当することが可能となり、早期の遅延回復や混雑緩和にも資することとなります。
- 次に、在来線特急車両「HC85系」についてです。HC85系は、国内で初めてハイブリッド方式で最高速度時速120kmで走行する車両として、高山本線の特急「ひだ」や、名古屋～紀伊勝浦駅間の特急「南紀」で運行しており、2023年度までに計68両を投入しました。今回、2027年度に6両を追加投入することとしました。これにより、お客様のご利用ニーズにあわせた、さらなる弾力的な増結や増発が可能となり、利便性が向上します。
- ご利用ニーズにあわせた列車設定等を行うことで、拡大が見込まれる需要をしっかりと取り込み、収益の拡大を目指します。



- 鉄道事業との相乗効果を追求し、沿線の観光都市でホテル開発を実施
- 外資系ホテルブランドと提携することで国内外のお客様への訴求力を向上

- 沿線観光都市におけるホテル開発についてご説明します。
- ホテル事業は、鉄道事業との相乗効果が期待でき、当社グループの強みを発揮できる分野であるという考えのもと、沿線の観光都市でホテル開発を実施しています。
- 京都と奈良においては、東海道新幹線や旅行業との相乗効果も期待し、3つの新しいホテルの開業に向けて取り組んでいます。このうち、京都市営地下鉄烏丸線・四条駅に隣接した既存ホテルを取得、改装して運営する「コートヤード・バイ・マリオット京都四条烏丸」について、開業日を2025年8月27日に決定しました。
- また、高山で運営する「ホテルアソシア高山リゾート」については、「ヒルトン高山リゾート」として2026年秋にリブランド開業することを決定しました。
- いずれのホテルも当社沿線の観光資源を多く持つエリアに立地し、今後もインバウンド需要の拡大が見込まれることから、外資系ホテルブランドと提携することにより、国内外のお客様への訴求力の向上を図ります。
- 今後も沿線都市と移動の価値向上につながる取組みを追求していきます。

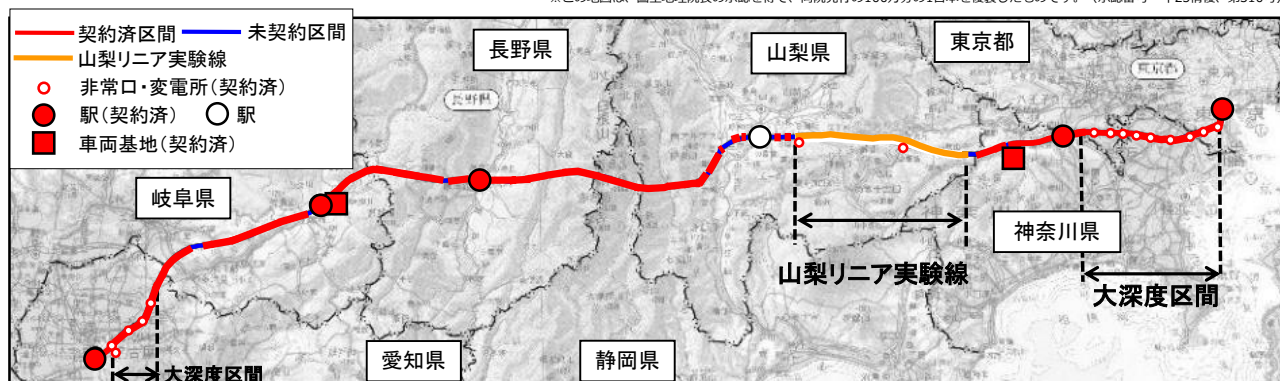
---

### Ⅲ 中央新幹線計画の状況

○最後に、中央新幹線計画の状況についてご説明します。

## 【本体工事契約箇所（2025.6.30現在）】

※本体工事契約区間等は概ねの位置を示したものです。  
※この地図は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の100万分の1日本を複製したものです。（承認番号 平25情複、第310号）



第一中京圏トンネル  
(坂下西工区)  
発進式



伊那山地トンネル  
(戸中・壬生沢工区)  
本坑の貫通状況



釜無川橋りょう  
上部工



神奈川県駅 (仮称)  
函体構築工

- スライド上段の地図では、工事実施計画の認可を受けた品川・名古屋間の計画路線のうち、赤い線が既に工事契約を締結した箇所を、オレンジの線が山梨リニア実験線を示しています。
- 大深度地下をシールドマシンで掘削する愛知県の第一中京圏トンネル坂下西工区では、6月2日に愛知県知事等の地元関係者の方々をお招きして発進式を行い、本格的な掘進を開始しました。また、長野県の伊那山地トンネル戸中・壬生沢工区と坂島工区では、5月12日に山梨リニア実験線を除いて初めて隣接する工区で本坑同士が貫通しました。この他、山梨県の釜無川橋りょうでは上部構造物の工事を、神奈川県駅(仮称)では地下構造物の構築を進めるなど、沿線各地で工事を推進しました。
- 引き続き、プロジェクトの完遂に向けて、健全経営と安定配当を堅持し、コストを十分に精査しつつ、柔軟性を発揮しながら着実に取り組むとともに、工事の安全、環境の保全、地域との連携を重視しながら各種工事を精力的に進めます。

## 【南アルプストンネル 静岡工区】

### 「大井川の水資源及び南アルプスの生態系等の環境保全に関する取組み」

- 水資源と環境保全に関する国土交通省の有識者会議の報告書に基づいて、静岡県等と対話を重ねています。
- 6月2日に開催された地質構造・水資源部会専門部会において、静岡県との対話が必要な項目のうち、水資源に関する全ての項目の対話が完了しました。また、発生土置き場については、通常土に関する対話が完了しました。
- 7月27日に大井川流域8市2町の首長との意見交換会を開催し、当社から、静岡県との対話状況や、山梨県内の先進坑の掘削状況等についてご説明のうえ、意見交換を行いました。
- 環境保全や要対策土の取扱いについても、引き続き丁寧かつスピード感を持って、静岡県との対話を進めていきます。

### 「リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議」

- 6月6日に開催された第7回「リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議」において、当社から、静岡県との対話状況等について報告しました。



大井川流域8市2町の首長との意見交換会

- 続いて、南アルプストンネル静岡工区についてご説明します。
- 水資源と環境保全に関する国土交通省の有識者会議の報告書に基づいて、静岡県等と対話を重ねています。
- 6月2日に開催された地質構造・水資源部会専門部会において、静岡県との対話が必要な項目のうち、水資源に関する全ての項目の対話が完了しました。また、発生土置き場については、通常土に関する対話が完了し、引き続き、自然由来の重金属を含む要対策土に関する対話の完了に向けて取り組んでいきます。
- 7月27日に大井川流域8市2町の首長との意見交換会を開催し、当社から、静岡県との対話状況や、山梨県内の先進坑の掘削状況等についてご説明のうえ、意見交換を行いました。
- 環境保全や要対策土の取扱いについても、引き続き丁寧かつスピード感を持って、静岡県との対話を進めていきます。
- また、国土交通省の「リニア中央新幹線静岡工区モニタリング会議」については、6月6日に開催された第7回の会議において、当社から、静岡県との対話状況等について報告しました。矢野座長からは、「静岡県とJR東海の協議は着実に進んでいることを実感した」、「引き続きスピード感を持ちつつ、丁寧に協議してほしい」との総括がありました。
- 引き続き静岡県との対話を進めていくとともに、静岡市、大井川流域市町とも意見交換を重ね、地域の皆様のご理解とご協力を得られるよう、真摯に取り組んでいきます。
- 説明は以上です。

本資料に記載されている将来の計画や見込み数値等は、当社が現在入手可能な情報に基づく見通しであり、リスクや不確実性を含んでいます。潜在的なリスクや不確実性の例としては、経済動向や事業環境、消費動向、当社および子会社における他社との競合状況、法律や規制等の変更等が挙げられます。

# (参考) 2026年3月期第1四半期セグメント情報

(単位 億円、%)

|                   | 2024年度 | 2025年度 | 増減   | 前期比   |
|-------------------|--------|--------|------|-------|
| 営業収益              | 4,352  | 4,782  | 429  | 109.9 |
| 運輸業               | 3,603  | 3,992  | 389  | 110.8 |
| 流通業               | 411    | 433    | 22   | 105.4 |
| 不動産業              | 203    | 238    | 34   | 117.1 |
| その他               | 531    | 577    | 45   | 108.6 |
| 調整額               | △ 396  | △ 458  | △ 61 | 115.6 |
| セグメント利益<br>(営業利益) | 1,843  | 2,212  | 368  | 120.0 |
| 運輸業               | 1,735  | 2,093  | 357  | 120.6 |
| 流通業               | 34     | 32     | △ 2  | 92.4  |
| 不動産業              | 61     | 69     | 7    | 112.7 |
| その他               | 5      | 23     | 18   | 457.2 |
| 調整額               | 6      | △ 5    | △ 12 | —     |

(注) 1. セグメント別の営業収益は、外部顧客への売上高のほか、他セグメントへの売上高を含む  
2. 「調整額」欄は、セグメント間取引の相殺消去

# (参考) 主な子会社の実績・業績予想 (連結修正前)

## ○実績

(億円)

|           | 営業収益           |                |        | 営業利益           |                |        | 経常利益           |                |        |
|-----------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|----------------|----------------|--------|
|           | 2024年度<br>1Q実績 | 2025年度<br>1Q実績 | 前期比    | 2024年度<br>1Q実績 | 2025年度<br>1Q実績 | 前期比    | 2024年度<br>1Q実績 | 2025年度<br>1Q実績 | 前期比    |
| JR東海高島屋   | 158            | 149            | 94.6%  | 23             | 14             | 62.4%  | 24             | 15             | 64.3%  |
| JRセントラルビル | 78             | 82             | 104.5% | 8              | 10             | 120.3% | 8              | 10             | 123.4% |
| JR東海ホテルズ* | 69             | 73             | 106.0% | 9              | 7              | 80.7%  | 9              | 7              | 80.4%  |
| 日本車両      | 208            | 229            | 110.1% | 1              | 14             | 999.9% | 3              | 18             | 474.2% |

日本車両 四半期純利益 5 14 276.9%

## ○業績予想

(億円)

|           | 営業収益             |                          |                          |                 | 営業利益             |                          |                          |                 | 経常利益             |                          |                          |                 |
|-----------|------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|
|           | 2024<br>年度<br>実績 | 2025<br>年度<br>計画<br>(前回) | 2025<br>年度<br>計画<br>(今回) | 前回<br>vs.<br>今回 | 2024<br>年度<br>実績 | 2025<br>年度<br>計画<br>(前回) | 2025<br>年度<br>計画<br>(今回) | 前回<br>vs.<br>今回 | 2024<br>年度<br>実績 | 2025<br>年度<br>計画<br>(前回) | 2025<br>年度<br>計画<br>(今回) | 前回<br>vs.<br>今回 |
| JR東海高島屋   | 636              | 638                      | 638                      | 100.0%          | 89               | 77                       | 77                       | 100.0%          | 92               | 80                       | 80                       | 100.0%          |
| JRセントラルビル | 341              | 348                      | 348                      | 100.0%          | 36               | 30                       | 30                       | 100.0%          | 40               | 32                       | 32                       | 100.0%          |
| JR東海ホテルズ* | 282              | 291                      | 291                      | 100.0%          | 23               | 13                       | 13                       | 100.0%          | 24               | 13                       | 13                       | 100.0%          |
| 日本車両      | 942              | 920                      | 958                      | 104.1%          | 65               | 54                       | 63                       | 116.7%          | 69               | 58                       | 69                       | 119.0%          |

日本車両 当期純利益 61 58 65 112.1%

## (参考) 輸送量の推移 (月次利用状況・多客期利用状況)

### ◆月次利用状況 Monthly passenger volume

(%)

| 期間<br>Period | 新幹線<br>Shinkansen |               |               |               |                |                 |                   | 在来線<br>Conventional Railway |                      |
|--------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|----------------|-----------------|-------------------|-----------------------------|----------------------|
|              | 東京口<br>Tokyo Gate |               |               |               |                |                 | 大阪口<br>Osaka Gate | 特急等<br>Express              | 名古屋近郊<br>Nagoya Area |
|              | 合計<br>Total       | のぞみ<br>Nozomi | ひかり<br>Hikari | こだま<br>Kodama | 平日<br>Weekdays | 土休日<br>Weekends | 合計<br>Total       |                             |                      |
| 25/04        | 107               | 108           | 108           | 105           | 109            | 105             | 109               | 105                         | 103                  |
| 25/05        | 110               | 110           | 110           | 107           | 110            | 106             | 113               | 108                         | 102                  |
| 25/06        | 112               | 114           | 111           | 106           | 110            | 118             | 117               | 106                         | 105                  |
| 25/04-06     | 110               | 111           | 110           | 106           | 110            | 110             | 113               | 106                         | 103                  |

### ◆多客期利用状況 (東京口) Passenger volume during the peak holiday seasons (Tokyo Gate)

#### ・ゴールデンウィーク "Golden Week" Holidays

| 期間<br>Period | 新幹線<br>Shinkansen |               |               |               | 在来線<br>Conventional Railway |                      |
|--------------|-------------------|---------------|---------------|---------------|-----------------------------|----------------------|
|              | 合計<br>Total       | のぞみ<br>Nozomi | ひかり<br>Hikari | こだま<br>Kodama | 特急等<br>Express              | 名古屋近郊<br>Nagoya Area |
| 4/25~5/6     | 105               | 105           | 107           | 103           | 102                         | 103                  |

(※) 新幹線・在来線特急等は特定の駅間における月累計断面輸送量の対前年比。

在来線名古屋近郊は自動改札集計による乗車人員合計の対前年比。※多客期においては定期外の乗車人員に限る。

Note: The data of the Shinkansen and Express is based on the total passenger volume of each month at certain points.

The data of the Nagoya area is based on the passenger ridership of each month counted by automatic ticket gates.

※The data of the Nagoya area regarding the peak holiday seasons is based on the passenger ridership excluding commuter passes.

# (参考) 月次営業概況 (商業施設・ホテル)

◆商業施設  
Commercial Facilities

|              |                                                                                                      |                                       |
|--------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------|
|              | ジェイアール名古屋タカシマヤ、及び<br>タカシマヤ ゲートタワーモール<br><br>JR Nagoya Takashimaya and<br>Takashimaya Gate Tower Mall |                                       |
| 期間<br>Period | 売上高合計<br>2026年2月期<br>(百万円)<br><br>Total Sales FY2025:<br>2025.3~2026.2<br>(Millions of Yen)          | 前年同月比<br>(%)<br><br>YoY<br>Comparison |
| 25/03        | 19,690                                                                                               | 102.8                                 |
| 25/04        | 16,689                                                                                               | 102.3                                 |
| 25/05        | 16,674                                                                                               | 95.9                                  |
| 25/06        | 17,074                                                                                               | 93.2                                  |

◆ホテル  
Hotels

|              |                                                  |                                 |                                              |                                 |
|--------------|--------------------------------------------------|---------------------------------|----------------------------------------------|---------------------------------|
|              | 名古屋マリオットアソシアホテル<br>Nagoya Marriott Associa Hotel |                                 | 名古屋IRゲートタワーホテル<br>Nagoya JR Gate Tower Hotel |                                 |
| 期間<br>Period | 稼働率 (%)<br>Occupancy<br>Rate                     | 前年同月比<br>増減<br>YoY<br>Inc./Dec. | 稼働率 (%)<br>Occupancy<br>Rate                 | 前年同月比<br>増減<br>YoY<br>Inc./Dec. |
|              |                                                  |                                 |                                              |                                 |
| 25/04        | 80.7                                             | 1.2                             | 84.6                                         | 0.5                             |
| 25/05        | 75.8                                             | -1.7                            | 83.3                                         | 2.3                             |
| 25/06        | 74.1                                             | -2.1                            | 84.7                                         | -1.9                            |

(※) 各月の数値は速報値のため、確定値とは異なる場合がある。

Note: The number for each month comes from a quick estimation, which might differ from the actual results.